

家庭共育委員会

1月20日(木)に第三回家庭共育委員会を完全オンラインで開催いたしました。新型コロナウイルス感染症の感染レベルが上がる中で、各学校との情報交換や情報共有を図りPTA活動に役立てていきたいと考え、参加対象を各学校の家庭共育委員長(名称各学校により異なる)1名として、時間や人数を制限して行いました。委員会では、多くの皆さんが関心を持った三郷小学校のアプリを用いたリユース活動について再度説明して頂きました。その後オンライン上でグループ別に分かれ、事前に設けた4つのテーマの中からグループ内で選択して30分程懇談会を行いました。今年度の家庭共育委員会のテーマは、「コロナ禍での家庭の〇〇～語ろう子どもの成長と上手な付き合い方～」でした。オンライン会議を導入したことで、直接お会いしての活動はできませんでしたが、コロナ禍でも各家庭や学校で工夫している前向きな話を聞き、共有することができました。

今年度一年間、オンラインにて家庭共育委員会の活動が行えましたが、委員の皆様はじめ関係した皆様のご理解ご協力のおかげです。ありがとうございました。

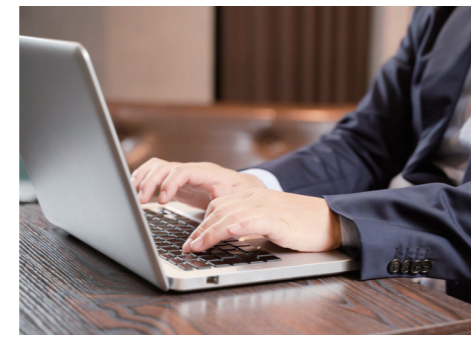
今後も家庭共育委員会が「子どもたちのために何が出来るか」を考える保護者同士の学びの場となり、この思いや活動がより多くの皆様に広がっていくことを願います。

第2回評議員会

令和3年11月12日、第2回評議員会をWebで開催いたしました。本部、家庭共育委員会、広報委員会の活動報告や中間会計報告を行いました。全体会議として「PTAの役員決めの現状、課題」、「PTA会費について」、「他の学校のPTAに聞いてみたいこと」をテーマに情報交換を行いました。

事前のアンケートも含め各学校PTAの活動を知る良い機会になりました。

第3回の評議員会は令和4年3月4日に開催予定でしたが新型コロナウイルスの急激な感染拡大を受け、やむなく書面決議という形となりました。



コロナ禍でも1年遅れてこんなことができました！ 豊科北小学校開校50周年記念式典実施報告

令和2年、本校は開校50周年を迎えました。昨年度中の実施計画は、コロナ禍により中止や企画変更を余儀なくされましたが、開校50周年実行委員会の「50周年という節目の年に、在校している子どもたちに最高の思い出を残してあげたい」という想いを実現すべく、式典、ひょうたん広場日時計除幕式、記念講演の3事業を令和3年10月30日に1年遅れて開催しました。

当日は晴天に恵まれ、市長、教育長をはじめ、昨年度に在校生として参加するはずだった中学1年の生徒たちを来賓としてお招きし、久しぶりに全校児童が体育館で一堂に会する機会となりました。式典は、児童ジャズバンド「スイングキッズ」の演奏で華々しく幕が開き、太田市長の祝辞、北小50年の歩みの紹介、児童から50周年記念事業の実施報告がありました。実施報告では、これまで児童がかかわってきた記念事業紹介のほか「ひょうたん広場」の日時計除幕式を野外Web中継するなど、これまでにない新しい形の取り組みができました。



「ひょうたん広場」は、ここ数年使われなくなっていた池を復活させた事業です。本校卒業生である校長先生が6年生の卒業記念で作った「ひょうたん池」を復活させようと、昨年度の6年生が企画し、それを引き継いだ在校生がデザインを完成させました。



2019年末から続くコロナ禍で多くの行事が中止となり、これまで当たり前に行っていた活動も制限されています。しかしながら、安易に中止にしたり制限したりするのではなく、その中でも最大限やれることはないかと知恵を絞り、これまでとは異なる視点で考えた結果、今回の子どもたちの笑顔を見ることができました。本記念事業の多くは先生方のご指導の下で児童自らが作り上げてきたものであり、開校50周年実行委員会のご尽力があったからこそ呼び込めた幸運であったと思います。本記念事業にご協力いただいた皆様に感謝を申し上げ、事業の実施報告といたします。



編集後記

- 「この出会いと経験は財産です。またどこかでお会いできるといいなあ。」豊科北小学校 山口有理
- 「素晴らしいメンバーとご縁に感謝楽しかったなあ。」三郷小学校 神谷貴彦
- 「色々、学ぶ機会をいただきました。ありがとうございました。」堀金中学校 三枝節子
- 「このメンバーで作った広報誌を誇りに思います！」堀金小学校 棚橋輝彦
- 「他校と情報交換出来る貴重な場でした。素敵なご縁をありがとうございました。」穂高北小学校 中村正世
- 「皆様の元にお届けでき嬉しく思います。ありがとうございました。」豊科南小学校 高橋健太
- 「貴重な経験をすることが出来ました。ありがとうございました。」穂高西小学校 伊藤高志
- 「学校生活等への理解が深まった、有意義な1年でした。」穂高西中学校 林真一郎
- 「一年を共にした広報の仲間へ感謝の言葉しかありません。」広報委員長 望月秀樹



<https://azumino-pta.com> 「そらいろのたね」では学校の取り組み等、記事を募集しています。お気軽にホームページよりご連絡ください。

そらいろのたね

安曇野市PTA会報

発行/安曇野市PTA連合会 / 発行日 2022年3月10日 / 発行人 向山啓二郎 / 編集責任者 望月秀樹
事務局 南安曇教育文化会館内 Tel.0263-72-2430 Fax 0263-72-6488

2022
Spring

今年度をふりかえって

2019年に発生した世界的な感染症はまだ勢いが衰えることなく蔓延し、人々の生活を大きく変え続けています。学校では今年度も昨年度に引き続き多くの行事が中止になりました。大きな声で笑い合いながら遊ぶ、部活動で完全燃焼するなど、今までは当たり前とっていたことができなくなり、子どもたちの生活も大きく変わってきています。感染対策を行いながら子どもたちに寄り添い、学校生活がよりよくなるよう大変な努力をされております学校関係者の皆様に深謝申し上げます。

子どもたちのためにある私たちPTAの活動も様々な形で制限されてきました。コロナ禍においては「感染の拡大防止」が第一であり、これが守られることが絶対条件の中で活動を行わなければなりません。市P連も例外ではなく、予定されていた活動は実施の是非から検討することとなりました。今年度は既にコロナ禍となってからある程度の時間がたっており、この状況の中でいかに工夫して活動し、各学校PTA役員の皆様、子どもたちの力になれるかをテーマに役員一同頑張ってきました。しかし様々な活動に対し「実施」するか、それとも「中止」や「縮小」するかの間で葛藤した1年間でもありました。1つの活動を「中止する」判断をすることは非常に残念で悔しいことでもありました。

さて、このような状況の中、市内17の小中学校PTA役員の皆様、会員の皆様におかれましては大変なご苦労をなされたことと拝察いたします。しかし、多くの学校から「コロナに負けないでこんな工夫をした」、「コロナ禍でもこんな活動ができた」という声がたくさん届いております。この令和3年度の「そらいろのたね春号」は市内の各単位PTAへのアンケートや寄せていただいた原稿をもとに、コロナ禍においても、皆様の努力と工夫で行われた活動が取り上げられております。まだまだ続きそうな感染症の蔓延ではありますが、皆様のこれからの活動の参考にしていただけましたら幸いです。

私の考えるもっとも重要な市P連の活動の一つは、各学校PTA同士が交流、情報交換をし、そこで得たものをまた各学校で役立てることです。より楽しく、より簡単に効率のよい、

より多くの親が参加できるPTA組織を作るお手伝いをするのであります。今年度寄せられた単位PTAの皆様のご活動報告や工夫、質問やご意見は「普通ではない状況」で行われたPTA活動の貴重な記録であり財産であります。次代の役員の皆様にも役立てていただけるようにこれを保存、閲覧できる形で蓄積できるよう、ホームページのリニューアルにも着手しております。

また、オンラインを利用した会議や交流もその良い面も見出し、今後の活動がより良いものとなるよう、これら電子媒体を利用した活動も成熟し発展させていく所存です。今後ともどうかよろしくお願い申し上げます。

思うようにいかないPTA活動ではありましたが、皆様には当連合会へのご理解、ご協力をいただき、何より子どもたちのための活動を頑張ってくださいましたこと、この場をお借りいたしましてあらためて厚く御礼申し上げます。

いまだ日本では連日新たに多くの新規コロナウイルス感染患者が発生しております。感染対策のため編集会議も開催できない中、少人数で作業を続け、「そらいろのたね」の発刊にご尽力いただきました委員長の望月さんをはじめ、広報委員のメンバーの方々にも深謝申し上げます



令和3年度安曇野市PTA連合会
会長

向山 啓二郎